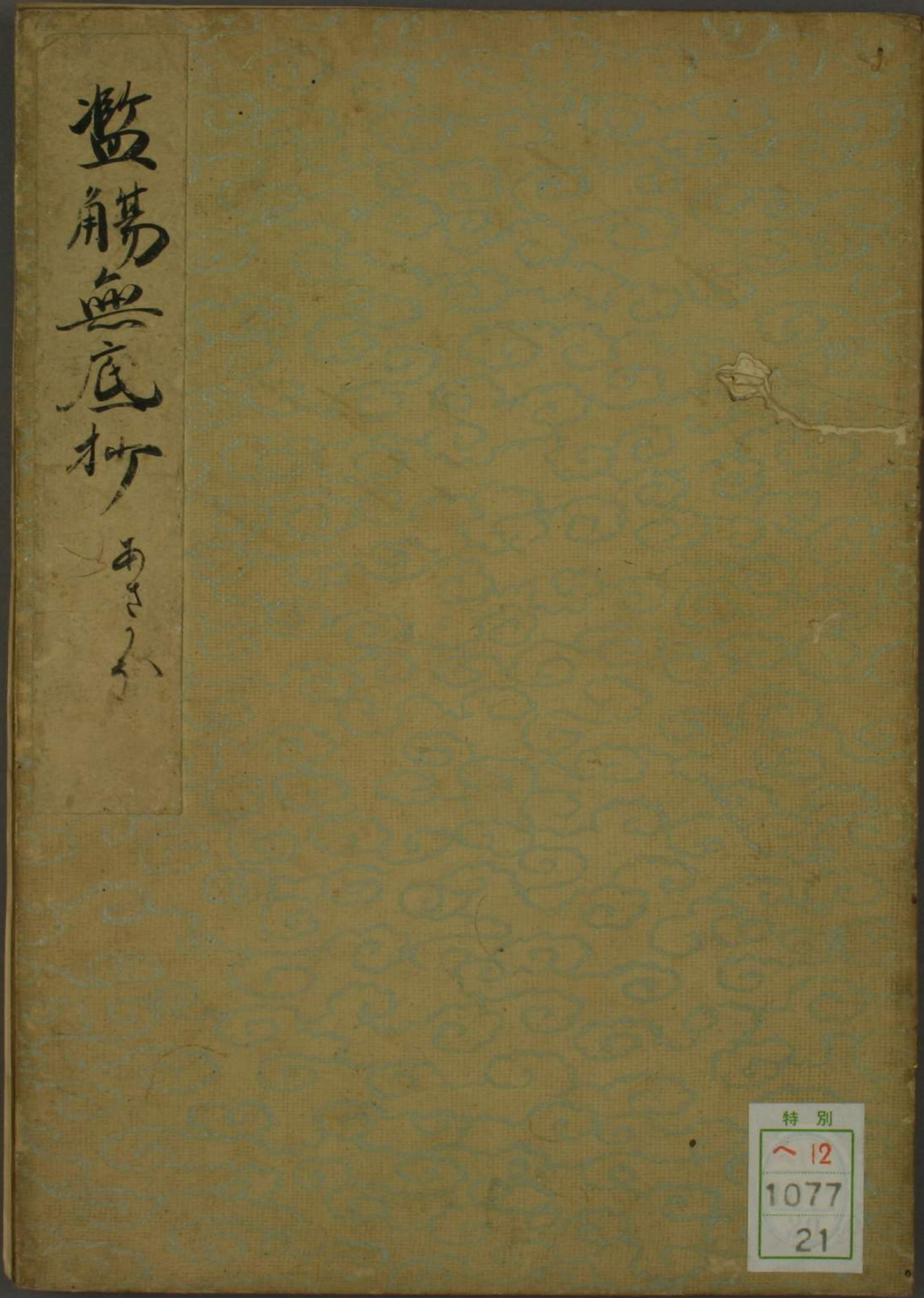


KODAK Color Control Patches
© The Tiffen Company, 2000
LICENSED PRODUCT



盤
觴
無
底
抄
あさひ

特別
~ 12
1077
21





利
1077
2021



橙

廿一歲

內大臣

九月喬院御服移桃園宮給事

女旦宮內宿給事

源氏系桃園宮給事

先系女御君次系喬院方對面宣

台局事

翌朝奉橙花於桃園喬院

源氏在東對面院宣台詔給事

策若前所院清事一惡源氏給事

十一月又系挑園文給事

源曲仍准挑園文為后村面源事

七十一許九

系齊院地方有人傳清廷許九

十二月在二系院与系若清行九

雪園事

昔お中宮清事一作雪山事

与是君物語人一上共給事昔九

故舊雲女院見源氏及惡給事

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

権

花以奇并詞為卷若

みーおりれ露をさしたる朝ふり
花のゆかりはるやーぬん
かまこら花もれかよ朋ふれ
これらまもくいひつらわと何り
卷を名以奇并詞号せり源共一歳
乃九月りりみこれ末まで乃事
みーり并日 并官内大臣若雲れ
同一年也

秋院ハ清うくしておりの花よきう

河

又桃園或ハ御宮乃酒服也重服

てハおりさせ給ふり也

花

権秋院ハ桃園或ハ御れは女御卷よ

咲たれつさよきよの若雲卷を

しり又たれは依りしり秋院

わ給ふ也

秘

若雲卷これ末まで或る文うせ給ふ

りー何りはひりなるりー

河海よ延壽帝れまこと乃のり成は
し准授れ例ありて一母文ハ一代
り一復りりり也母院ハその内身
小豚あまはとりり之代姑小
わりらりりり也 是母文母院
乃らりりり

齊
は美いり宮と稱すり人女人之權の
前母院又桃園或る柳
女め文之宮 珍仕る居
中男也 高雲女院也

木とくまい乃あがりそめはみりりぬ
水夕せ 河之標

源のよりりり事小んれ也ゆゑ
事也

宮よりりりり 前母院也

源乃さぬくいひりりり 活ひり

いとらあし 秘 源乃由也

うらまげたり返事りりり 標事也

長月ながつき ながりて 桃園宮り

秘

重脛おもひぢよありありありありありありありありありありありありありあり

いさひひて 先地さきぢありありありありありありありあり

ほり 桃園とうえんありありありありありありありありありあり

あり 桃園とうえんありありありありありありありありありあり

流なが也 弁日ひらひ

啓園元

河

大和物語云桃園とうえんありありありありありありありありありあり

二年九月七日

いさひひて ありありありありありありありありありありありあり

ありありありありありありありありありありありあり

大いこ乃 秋れあきありありありありありありありありありあり

ありありありありありありありありありありありあり

拾遺集しゅういしゅうに 桃園とうえんありありありありありありありありありあり

院いん乃 毎まい風かぜりり 貫つらん

白しろ少すくれつつり ありありありありありありありありありあり

も 香かりりありありありありありありありありありあり

桃園とうえん在あり 一いち条じょう山さん大だい美み西せい津つ許もと

世尊よそん寺てら南なん當たう寺てら号ごう拘こう杞き町まち元もと師し氏し

大知言だいちげん元もと保元へいげん中知言ちゅうちげん 代明親王だいめいしん男おとこ

傳順の号桃園中納言今桑敷園
親王幸丸傳記云延^長二十年六月八日
母院宣子内親王自京中而病困篤
及曉出院至太宰府親王桃園家
九条右丞相記天作三年二月十二日
桃園家小寢殿^{立坊城}此家本為寢
殿去冬立小軒却之小對早廻を甚
仍取改作也

女小の文うこくにおひりまは

^秘式乃るま乃の成連後之 源の成後之

うらゝ、これなりひり

權成院乃の成なりひり

文一とくこつけてうら源乃おひり

為之

二院のみをこり成

^秘成院とは相違也

こも

^秘源をきくくく大切なりひり

女なるもの成相みうの心とに

おんせしゆの源もくわぬぞ

ほそくはふさふさくわり

きしすといふ心え

弟子比と云ふきえ

お新しき人てんれあしんり

河 西ハ舟流東ハ女あえ

秘 桃園北東ハ方ハ女又伝ふぞ

福もくわぬよけりわらして

秘 或る宮藁一語て福のきふにわす

うらさぬわれし

た くらつげみさひくもあつらみ

ぬしききやはあつらり

けむわりあま白くけあつひきり

あまい人し語ひて

秘 秘 是ハ女也

けあつらりあしんりあまわりあよほ

何あしんりあまわりあよほ

松は折政の少方にてうり
花やよりにてさされくけ女は
すうたあうあうくておこは
まはそれをさううくありといふ

院れうく乳活て後

^秘相壘帝や 女めまの句
私相女又の兄事し

こみ喜さくくうりすて

^秘或るまの池園なり女めれ兄
かくさうり

源乃さうひまを云

ううりあまのゆれ

^秘源の池心のうらよものからゆれ
うりまは事成さうりや

う比うこまりて

源の女めへ慰むるあふさう

院くれきぬひてりらハ

私をよき徳の徳也

おれ世乃やうせ也

おとくく別世果はるりくやう

ありと也

おれぬつこも

秘 丁波の事

私おれぬつこもはるりくやう

罪はるり也

おれぬつこも

秘 海京はるりてハ又政道ハるり

ありと也

おれぬつこもはるりてハ又政道ハるり

ありと也

久く無音の徳を源乃徳

ありと也

おれぬつこも

秘 女官同し命なりてすはるり

つ海ひたりとれ事人笑ゆる
るけりまきと也

いつこよつひても

^弁相臺帝崩所の下 源氏とほみ
くさり活るとれ事也

いれらさるるなりき

老子曰 いふ事多し 壽則多辱

かくてかふたらさり

^秘源乃今さらさり活てくさる

まよととれハ命おろさくひ何

はやりよれ也

こせりりてまうれ

いのちかして源乃まゝ活しと

女のうたはらへんはんと也

いとまうして

^秘ゆりせうひて源氏をあらは

因女女の又さうよのまゝ也

松びららむひてやあまはらな

とほくらんちんうらんちん

くすくす

くすくす

源乃細うたけの事

時くみまじりて

あまのりはせまゑせぬ人とあや

うくうれい

口乃うらみん

秘 冷泉流源

ゆりこしゆり

秘 源乃おのり

うりた

あうく

秘 長

あまのく

秘 源の

ふう

秘 源の

うちれはうこらハ 答也

あやーきはとーり

^秘さうししきりりしんといふ

ほろと

けくみさまうれハ

^秘女々々の洞やほろとあーい

さまのりし

いーとさい命のひゆし

命れあうさとうらひふよーな

くいのちのびしとや

又まいふよ

女々乃ぬまあしとあ

三まーやまーく

^秘何 振政少方 養上母

養上母あはれりり

又女々の洞や

けくさいほゆりらひして

^并三宮源氏成むこや

源氏筆としてにまうのゆりま
ま〜〜ま〜〜ま〜〜ま〜

このうせまひあつし

花
うまゆめつハ武名文のま〜新院
を源氏まあつひま〜りま〜ま〜
らりま〜ら〜と三まま〜んと
と〜れてま〜ら〜ら〜ら〜ら〜

秘
ま〜ま〜

或るま〜で榎新院と源氏ま〜

す〜〜ら〜ら〜ら〜ら〜

源のま〜

秘
ま〜のま〜ま〜ま〜ま〜

ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜

秘
ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜

ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜

らんのかし

これゆゑにせ

みおのい女めの事しよかにいひ

うり

秘

しこらうとくくくくくくく

何れよのたまを

秘

秘院の地を

えんしんしん

しこ物済み得られて源のこく

しんしんしんしんしんしん

かきまひしん

秘

源の地

やうしんしん

武西院すの地しんしん

松すのこい貴子とれとこい

れ貴子とれとこい

ふひまのふしんしんしんしん

れしんしん

秘 服者れ所す西麓命りあ

いふひふれ印と申すりくはさ
凡帳といふ丁のひさるゆりて
中記之らせんあしゆりは
これいふひふれ 松島今版者
いりて也

とれこいふとつとつとけは
是も貴子篇外あり

せん一たいせん一て
秘 新院の言も也

何 新院宣 女房の言也

式新院宣るといふ新院一宣る
事しとあつていふ人と云中
のし日一事也

何 新院と成より時
の言も成情
れ一入こい かの

松云中文新院と申すいふ西むき
ゆりて申す事一人
ゆりて申す事一人あり

きたいふりれをいひて
又ハ文年とてく役者おが
せうまをわまこ取せん
といは物致あり

御世より世このいこ也

^何はきりてこのいこ也
す大物物致も忠告み
くしれしよ小物りして
るししと何あり

いまさうまわらく一みすの

まくれ

^秘巻中一七りりて物致何ま

いさうまわらく一みすの
私りすのまとい源の
若しハ冊巻れみとの
命いさうまわらく一
年のうと官位あるに
てこのまやちらけう

おろしあを

神はひりきりて月れらる

^秘源乃心鏡にけり年々此年

くまらうや 新日

^元久しかりにらりて神さ

何しはいや歩流も多ふ

河あまは神さあふいふりあり

やらうの勢い身云の芳きい

神田 又神宿田雅

^後こきうけり衣れ玉ハ位れは乃

神さひりきりて松れも事

今葉神さひりて流は田字お

叶をたうハあさうく田さあ

しやさひりきりて高字のたあ

うき心ハハ一叶を後成る言

書乃合判田ハさひりて

りりて慶長元れ心を見か

合判^モ洞^モ石^モ地^モ丸^モ海^モ洞^モひ^モ志
ひてまひてこゝれ傳^レれとあり
津^ノ浅^クあゝあ^ハ事^ハよもしこゝれ家
ひハ^ハ剣^ノ力^ヲを^シう^ラまひ^ウう^ラし^ハハ
へ^トて^テみる^ハ紙^ノ難^トき^キ 日^ノ弁
紀^ノ一^ノ宿^ノ海^ノ宿^ノ雪^ノと^ハあり^ハ是^ハ
有^レレ^ハ女^ノ宵^ノレ^ハ言^ハレ^ハ事^ハ也^ハ古^ノき^ハ定
る^ノの^モう^ハ宿^ノ鶴^トし^テま^ハる^ハ也
古^ノ知^レれ^ハけ^レお^ハ流^ハ後^ハ成^ハし^テ流^ハお^ハ見

衣^ノ鐵^ノ乃^ハま^ハひ^ハ武^ト サムロ日

し^ハは^ハ内^ノが^ハも^ハゆ^ハふ^ハさ^ハせ

^マイ^ノガ^ハ ^トウ^ノウ^リ

知^ハは^ハ内^ノが^ハレ^ハ若^ク別^トも^ハか^ハく^ハゆ^ハう^ハさ^ハせ
始^メん^トと^ハう^ハし^テ云^ハは^レん

あ^ハい^ハお^ハう^ハー

源^ノ乃^ハ海^ノ是^ハあ^ハう^ハす^ハお^ハか^ハく^ハう^ハん

あ^ハり^ハー^ハ世^ハハ^ハふ^ハか^ハゆ^ハふ^ハ人^ハみ^ハなり^ハて

羞^ハく^ハみ^ハれ^ハて^ハい

事
げ 洞母院乃 浪人傳にて也

概 元
又 文の 由事 也

内 入り 此 延喜 登 母院 あり け び
可 一 事 一 事 一 久 一 一 威 一 一
と 也

松 又 宮 一 せ 多 一 一 一 母院 とも
と 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
や 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
皆 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

は 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
そ 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
れ 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
皆 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
は 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
か 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

らうおしーつゝあや

^秘 年月れ方ありしハ事ひきりたる

けしきゆさのうゑ

^秘 源の力と下何事も不足

なほせ

^源 人まきゆのゆきとまら

こゝにまきあが世成るゆれ

^秘 新院にて年月より一ゆりたる

ハいせれこゝひもそとあを

只しハらぬひまありとさかゆ

ゆのゆきとハまきゆ

こゝにまきあがことハ源あり

まきゆ世ふかうゆ

花事ありし月日何事

いまは何乃いさあな

^秘 ^何 神乃いさあな事

こゝかろひきりたるもなる

一何事とゆきりしハたれ

物とて

并 歌院をりあひに神のいふも

あゝとて

ふふとて

并 ともあひりあひり事なり

秘 丁海のりあひ事とて後ハナ

ウまりきいけとて物とて

秘 松木とていふ事とて

とていふ事とていふ事とて

ありとてハ松木歌院とて

源はとてのりあひなりとの後

久しくあひりあひり事

とのりあひ事とてのりあひ

つれあひ

いとてあひり事とて

秘 人けてあひり事とて

并日

はらりいふ事

秘 源のりあひ事とていふ事

并日

元

新院の流返事一はたこれ世のあは
ま紙やうげとぬりりりつきて
あこなりぬるまひいけいこれ
乃とまいらひ一事何れは神ハ
しほまといさあやうこそ
新院の流返事とせ世中れあはれ
つらるといひりり紙紙も神ハ昔
らひ一まらひ紙紙一
まらひ一まらひ紙紙一
まらひ一まらひ紙紙一

秘

鼻

あつて世の事とまらむも我やい
うんと新院のうみりあはれ
あれはうそのあつては

秘

源の詞也 鼻日

それよのほまはれまらむれ風

それよのつこといこ紙つら
まらむのめまらむてはぬらひ
すてららむ

秘

それよの風何海まらむ

河 樹下集

海しるは科戸大風まきり
海すくはるん大海乃くは

東南乃風をされ去れれし云流の
洋を吹夫と云

中長後云科戸風乳方天れ八重
雲を吹拂り也

先代四華本紀云伊弉諾之由我
所生く四叶有朝霧アツリ薰ニヤル漏矣乃
吹撥之ハク氣化鳥神是謂風神也

名級長津チク彦命ヒコノミコト次級長チク彦ヒコ神
志るもの風中長後く河因神事

用け流

あいなむもこらけ

源の河さぬ

みそまを神はひ

秘 源の河 神日

河 伴の天
あまのつみまを神はひ
人ともいふて

秘弁

いづまといは川ありとあり一人を

ハ飛方といはあまの心秘弁

花

意せしとみうし川せし

神をうげすう威はくしと

今葉何ありよハ飛ハれ

ハ風ふく色して泣くあ威の

悲せしれそ心ハ神とけは

やん今もあけし物付よ

一のまじ

私れみそ心と神ハうまじ

りのあまして面白

うしれまはれん心もあま

ハいしとくし

源のあまはるくくのまじ

乃やうし物あまらけぬ

あまは実あまらてまじ

ふいせうしやうとてしやうか

うらみあはれありとてい

^秘 おまはれと人々ははれと御也

^秘 いそはれと人々ははれと御也

うらみの心こころいふとて

いそはれと人々ははれと御也

^秘 いそはれと人々ははれと御也

いそはれと

いそはれと人々ははれと御也

いそはれと人々ははれと御也

いそはれと人々ははれと御也

いそはれと人々ははれと御也

^秘 いそはれと人々ははれと御也

いそはれと

よりひ乃はありふハ世経く一う

秘 しく介執せきさあう一と西国も

うさいとせ振ふる河し

くたさうぬやつまをしこそとさふ

来 河 源のうらふ家河し

若う門にせむる月いてくみよま

花 と侍人れされあすうささ

金川ますうささをんをうりまて

きこてまかりしふと

秘

若う門にさうせあてえとさう

うらうら

私書すふ人れるわらうささ

いよをむまゆらてしたりぬや理

のまあり今せむかいてさみ

しうんやうもされかとおさく

あひしらひ振と振ふる河し

斬せれきてまいのささしああり

源乃よて人くあてさうくし又高き

春に林好の由りこりきりふたの
つと書るしれ事ありの由りこり
大いこれそりありき

秘 九月廿九日

さあ物のありたり
えいこのみゆみゆ院の女も
乃おれしゆのせ
秘 母院44すす時りりりりりり
こひおろせ

秘 松秘の心ハ并院りりりりり
出ろりりりりりりりりり
源の心ありりりりりりりり
秘院れ女房れりりりりりり
秘 是ハ源の心也

こみりりりりりりりりり
格子をあらせりりりりりりり
しもあをりりりりりりりり

朔く初夜ありて多しせり

辛 九月廿日也

けさやかあり

何 あさやう月夜に揚子を

辛 以下源氏より此文の初

松 又此初よりくく着り

さうひもあつたやうに

とわすしきういほのよと

てりゆき

さきもいほりてあつた

つぎに又うらあつた

原 みーありれ露のよまぬ

露れさうりいるやうに

或る姫宮に朔くあつた

ゆきさうれあつた

とみーあつた

ゆきゆき

松 源氏あつた

羽ふきむらさきしるし第百集いりしる

しるしをたきしるしの事成りしるや

トウ入心ハ権乃花れきりハ程

あふかあつをいりしとさひつた

さうしで心ハあひんまし一は

いそぐりし

并 花れきりハ心やしあんとハ源

氏あつしといふ心まじし

松あつしといふ心まじし

西白一

まじりし

ゆりもさうさうれきしれちし

ハおちしきりぬんとさうハあし

いふ又ハ綱なりし

くハあし

秘 くちりよしもあハいとおちしん

とあし 花鳥の義あわし

松あつしといふ心まじし

と紙ゆりしもおちしきりしし
川ハさうたしよ義経こええ 龍馬
の流ハあやまれば

光
うハ我身れをし流くもたはひき
さうしりよ六船がれ 龍馬
さうさうりさうせし下の親母おれ
ひきまはゆわくの心りとこの龍
しりあ

木とあひさうあまればさうり

歌くわん

必
あはさ由のこしりたのせし
うりよ

おちりうりしん

はゆきあへハ原のたあさう

巨権母化

林くしき香れまうれまむすかあま

あはさうまうたにうりあさうが

秘
原のあれさうむさうてれたもて

はりしりてせしり
ト白我のちかろり日さるる
す世間のふれいふとこれあ
さうちのちしてははらひは
りつらせちるまのころは
し松云のまはらりふけり
かいらりよー 是もろり
林しるるはちるまのころは
さうしりりひたらちるま
と拵らりりりり

松花れきりいさやあんと
しりりりりりりりりりり
林のころはちるまのころは
ちるまのころはちるまの
ちるまのころはちるまの

あうりきりりりりり
新虎のころの詞也
朝ふかひりりりりりり

ふいねと我くとハ舟院の返事なり
かゝいりふみ露あけくといふ事なり
らあれハ露あきといふ事なり
うーせ

秘

とおとひのうらなうたの威者が裏
しつりもさういふくられて何ん
まなううーせと我れゆりハ
わんともあつても我れとさう
りあつてはま似つううーまことさう

なうーま

秘

さうりハさやーのうんといふ
しりあて露あきくさしあり
私りりりといふ様ハ舟院ハ返
あつて物やと我れよつては
露あけくといふ事なり

なまのうーま

秘

いつよあつてさういふ事なり
もなうーまといふ事なり

青いひのこはちよひうなるう曇つてい

りし

^え 旅者れ月う成れあし 何日 何處 ^{ナシ方}

すこつまいりしこ一塔てふふとく
のまよし

人のれやしうまいあままをくにつくろは

まろく 幸 双子作れ網

^秘 草子れ比やふるれ贈答うとく
のかとくくはあくくこりなりて

あしき幸しあつあせうれせりハ

奥のれりしとまよりしなようり

つこくこくもるれすれあつせ

世間のこたもあしと

うれせりハつこるれ幸しはきこく

し ^{はらま} まひひあすハあしゆんこ

もあつれよてしうりし

れまよこらりしつてあつらる幸

おろりりり ^幸 方曲

松人のやしろをいふなほなつてり
うれつそそれけいけいさういゆも
とハウをいふて先是ハ人々の恒
ういふぬさししてけいけいさう
うれしうけいけいさういふて
ついでいふていふていふていふて
いふていふていふていふていふて
いふていふていふていふていふて
いふていふていふていふていふて
いふていふていふていふていふて

花鳥空方なる物れはむいふてい
けいけいさういふていふていふて
ハ花ういふていふていふていふて
乃心之程又さういふていふて
いふていふていふていふていふて
いふていふていふていふていふて
いふていふていふていふていふて
いふていふていふていふていふて
いふていふていふていふていふて
いふていふていふていふていふて

お月一とせ

おらうあしきうい

源仲之

秘 只しハ似ありぬ根母より孫一とせ

もてふあれぬ流きしきあう

秘 歌流れ源氏り一向あはりて

これとす又あしかりし孫ぬ

とし

あうりて

秘 さうみりしおまうりて也 并白

いんうれい

秘 二重流れ東乃射也 并白

源のすしあうこゝろと

きん一紙むりり

秘 新流の宣名也

秘 源あうこゝろと

さうぬ人しれ

秘

新元よきうぬ女房に

あしやうれかるしははやしらも

源きぬ人かきなひく庵さ

かよの心はあま女房さしはけ

源ののりさうたうてさき

ふさくはやしらもはこれよ

さしひとらんかたにさき

いさ

宮はうれうてさき

秘

源もまも年わくまう海に

しつさうてさきあま

源もまもいさう

源も源もあまのひとさき

しつさうてさきあま

あまのひとさきあま

あまのひとさきあま

ほろろかきすまよにけり

風流りぬ文るまにハ世事なま
ゆつと人れろくくく
うすしんと世れとま
あむす

少りかきすまよにけり 源のなま

あうりまたあし
いさし源とまのいぬ

よのりまうりあし

^秘くせろく
あむす

世中よりりこして

^秘世間少は人く
いさし源とまのいぬ

^秘そ、いのろくハ
繁上

あうりまはり
あうりまはり

葉上ハ世回のこり少はとや
ゆりともいふ事ありともこ
ましはうく一語りととまり
ハおのひもひ一せ
明石丸事なとも余所よりし
めいびり源のこりともいふ
まハちり

う比つけまらあ

葉上乃源のわりあふは紙にけ

てみるせ

い辛一まらあ

秘源し

源のいき一紙れあう紙にふさぬ

ちりくあせ

まあく一とせりなりんし紙

何まよし一とせ

秘まゝ実なり紙我りしとせ紙に

はまらういふこりよいひ紙

おねーとらに

桜

葉上ハ或る身之権舟流又文乃

は子なりりーヤ 春日

朔風の舟流ハ源氏といふこと

まりーゆせハおねーとらとて

うれなりりーの事とてハおねー

と

おねー不審けお流文とら

事とておねーとらとおねー

ひーりりんとて

権とハ源の執ーお月とておねー

おねーおねーとておねー親王

の女とてハおねーとておねー

れりりりーとらとて

年ーりりりて

源乃葉成権ーとらとて

るーひかーとて

上

人よとあはれん

秘

葉上れわが身はとほのまんと

白くあはれん

人よとあはれん

うらな

うらなとあはれん

活のよと

是も葉の久くよとあはれん

あれてあはれん

あはれん

葉のあはれん

あはれん

あはれん

あはれん

ま

うらな

秘

うらな

うらな

そくしめりこそ比ひてく
みるもしりくこれ実につく
おがすりぬみしぬかよてた
まらし

くしちりうらあらうらう

源のほをれあくろくしめ

うらすくしきり

まれもをれあくろくしめ
らりしめり

解くといひあて代 何 役せ

又くしめりしめり

源ありあて

秘 四すこの源の解くしめり

しめり

後 林までれ命りしめり

新れあてを解くしめり 新

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

まよふ人れ言といひしるしるはさうしるし

秘 景上のゆく人のさうの八塵言す

てはなまのしるし

弁 人の言ふとはなまのしるし

とたりし秘の類也

おろりけしとさうしるしをさうしるし

りるしるし

れけしるし

冬つらうしるし

何 秘 神 日本記

秘 諒周あふ十一月るしるし

停廢す秘 然日

弁 病をさうしるし

しるし

私事、拙園あしるし

やまれ事、諒周

まのしるし

権へさうしるし

まじり流ハちろろとくせは
ありしうくくさあせり

心よろろん人からくそー

舞 権の文れ貞心ありりー笑ろ

まろりや

源の輩くいしまよひん ハ 辞見 目申

女め文れ

源のまろりよれ細し

足もやり流す

秘 葉よせ 日ろん合せあせ

ろろ若しめてあそひ

秘 明名姫若くは葉のこ

あやー色し流音ーまのかはまろりーろ

うかほくろりーや

秘 源の初こ 何までも力おれし

そふつこもろりー流音ーまこの家

ハあやーまよせ

まふれ衣れあまろりあへるれ

何
昨夜とて
さあま
ろろろ
定まる

何
すぬれあまれと云ふかゝる衣なほは
くくれしうめよさうりま
秘弁川弁川
松あまりうらそひてはつら
しとてらとここもまは又何
とおかすたうゆましきの
さしとんりあましきしては
しきれい女こしきり
あれりしそまきまうれとお
あま

何 秘
雲の網

何 秘
あまのりはういせあれは
塩やま衣まはななるん
秘
川あま
松志かゆい衣し
あまを川へて
網の源のこしと
あまのりはういせ
あまのりはういせ

見すすくせしきまゝなる 源の心也

宮より流せり世にこ

秘

源の女（お）りせんのをきんへん

内紙物（一）よりあよぶるよこ 昇白

かりりけり事しあむるも

秘

策上の心也

あひるもあはれともあはれ

秘

源氏若源圖（一）りてよびれ也

衣とまのりふさ

秘

源氏の衣裳としり狂服をれ也

昇

一物九辨来斗心

又いさて

源氏流きぬを策のみりす也

まよふるにれゆきり

秘

策の心（一）けしきくたれ活てつ也

馬穿（一）れ活てつとあさくた

をれ也

流せしるもののみやれぬ

お遊うしもお遊うしをあらわさ
しは仇とみえりけり
振袖をいひまうせりよは源氏公
よそよけねくお遊うするる
口よりかうの何りまは

^秘源乃詞之集乃よりかたあつまは
おりたれも或る女をいれ
かたきくはみよとせし
意強とのていてあま

多々桃園みしりつは女
或る女ハ控せられ由又桃園乃
或る女宮也

いてやれん ^秘さうぬくの
源のうらりまもは仇の
れぬまれいさくはまし
いれふくはくまきま
うんしりやくし
まはわたりてれ人まは

秘 女ふふ

松は八門の事なれば柵園の交
とさうしてはふれ水門ハ新命の出
入すり門なれば人さげさといふ也督
あたらうりあたらしくいふ

秘 柵園の交れ西の門也
秘 西門より入る也

交のぬくこふ
女ふふのぬくこ

ありしわらり流り

秘 子ハ言つてぬまはくこらり也
弁 費うけるしすり成のり也

みしりり 何 園人 海法 園 青島
和名 加度毛利 子門 也

らすきさ出さうて 薄 映出来

秘 世はみすぬらりし 子 門也
弁 さいしをい神也

こがぐとひまて

れ 久々ののりるこ

行サ馬蹄生易躰用稀仰

鎖法難閑 白氏文集

けつ成りり

秘 けつ成りり

何れとみこしあす

是らり源乃也

ふれみたりとあすの何とよみとあすの

あれあすと成ふまゝ

秘 書表成の本らんとあすの何とよみとあすの

あつら松葉しく三九とあすの何とよみとあすの

ゆへ源氏今年廿一才とあすの何とよみとあすの

今日れらる久しとあすの何とよみとあすの

さき少しありあつらとあすの何とよみとあすの

むえそとせし月とあすの何とよみとあすの

こいつ 秘

國三才とあすの源三才とあすの何とよみとあすの

是書衣袋の常平九年少江之と
とあり

松山彦別メ如比は後を伴而可信
之他之流不之用之然中他之
抄之義奥之流加之

河
毛詩曰三月不見况於三月或曰
自取戸帰洛四年元

源氏末廿七ノ丁由より越之海より
一ハ廿一ノハ五ヶ年をれと

三と少の河ありことり之承大と
久一三のハ三年といひて是
とれ久一三事三と少の河か
とハ三也

并
丁由より河一ノ是 源氏
廿一筆をて解れ海京以後四年之
桃園ありよりありて此也
三ととせ 源氏廿一ノあり
そと程とあり流之三と少と也

おぼすゆへに十年をこころ

又あはひうら

女多あや河アヒカ欠伸曲礼新徳乐死日

いひまうら

因去女女のいひま何乳舞舞文

うらこいひあうらうら

女多喜れいひまれ多す沢らうら

新くして源のうらうら

又いしあうらうら

おくらり又む人のうらうら

いしあうらうら

うらこいひあうらうら

秘 新もあうらうら

院のうらうら

秘 新もあうらうら

なれりうらうら

源のやうらうら

源内約のすき

何上篇女房の曲侍ト云テハ内約ナスケト云
ラヨケリカレノ君トハ内約ノカレト云ハ男子ト
十二トハ女房ノ後ハ男女共ニ云入リ塔チヤト
稱スルヤ

是より源の家よりよきひまより
うけと

この文は流てしよて

源内約よりし居されはひきえ

そのよれ事ハふかひしかりり

源の河の流のみくみの流代のもく

そりうにちりいつもむかえきよ

源の流の流すときくはとひ出

ぬみせれ代の人ハおろくむしよ

ちりてむりそくまかちりよの

こころとまつひてうれしき

せと

おちりよあせりたひん

聖徳太子達磨和尚片墨山亂舞賜

へりり流遊人スル舞

三れてあやこい墨山のいひよて

あせり猿人ありれおちり

我身ハ今ちちりけしよのまを

秘

秘

いふらふ状てとみから流るるを
くあへりらひあつる源の仁徳の
心うくあさげあちらゆるく
川あ日ち 井日

え
源内約をゆくゆくれあよつこ
てあやなりしよんくそ流へり
よのあよの世俗は母れあれり流
うらちりあひしすりなせ
松けきめ何

いせりしちる出へ

源内約のさゆし

丁けこみさぶらつこちるあ
こつひ

秘
老をれ達あらく口らゆ

みいしちや

おのひやあつこつひをいせり
いよてはりしものしちるあ
うちきれんとつ

秘
あれ幸れ也

よ
うかしてまゐりし

源内約のいさ

何
身をうりしとふらう海は今又

人乃うしもあはく言ひれ

秘
引あはれ日我力年の一りあり

とんてまていまいちうしとおり

友れ年一りうら銭とく人のり

いといは源内約我力の老とは

いふうして海のくまひはたか

しとよと

秘
一勤源内約の年れよりくると親ら

視之 源内し 引身河日

い身とあまくはれす人のうとあ

一老れ力乃うし日あわらなとよ

命とあは源内よ年とみ一人も

力うしいひ一むれあつ秘

みれす年といは

ましましむる老れやうは 源の心
秘 今更なまありくろ老れは 源の心
こよとく老はりしよりれ老らうの

とせ

や 何のめとよハスこの事一此何
と源内竹のすハものかりの老ら
とありん

ひまうくこれし何れあり

武業卒れらめのみせぬて

源氏の性日

百と歩みとせうめ日

こえりまいとらね 河桃桃戦

これよりよ
秘源内竹の
年よりよ
いかりの
あは

まきも
けりも
くも
とらり

院の所代女流もなるといふを
源の女もいひていふ

いふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふ

ふふふふ

入るの宮れ所よひひめあふふふふふ
のふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふ

源内約いふふふふふ

ふふふふふふふふふふ

源内れふふふふふふ

ふふふふふふふふふふ

ふふ人の命ふふふふ

ふふふふふふふふ

おあふふふふふふ

ふふふふ

秘

く世中不_レ定とあ_レれと云
多_クみとら_レしあり_テ源内_ノ約_ハ我
身_ノれ_ハく_レと_ラり_テ活_レむと昔_ノれ_ハを
と_ラり_テわ_レく

并

源_氏の_ハ何_ノも_ハみ_テの_ハ源_内の_ハ約
れ_ハ昔_ノれ_ハ心_ノを_レれ_テぬ_レり_テく

私_レ秘_ノの_ハ義_ハ秘_レく

源_内の_ハ約_ハの_ハ義_ハ秘_レく

^{源内}の_ハ約_ハの_ハ義_ハ秘_レく

お_レわ_レち_ハや_ハと_ハう_ハい_ハひ_レく

秘

と_ハい_ハお_レく_レと_ハい_ハわ_レれ_レく_レめ_レり
親_ノれ_ハお_レわ_レち_ハと_ハい_ハり_テこれ_ハ契_ハひ_ハ子_ハよ

こ_ノは_ハを_レり_テせ

秘

お_レわ_レち_ハお_レわ_レち_ハと_ハい_ハり_テは_ハい
て_ハま_ハり_テち_ハみ_レ子_ハよ_ハい_ハの_ハあ_レぬ

な_レり_テく

私_ノ源_ノの_ハお_レあ_レり_テし_ハる_ハ種_ハと_ハ源_内の_ハ約
音_ハと_ハら_レい_テあ_レり_テし_ハな_レひ_レて_レれ

うらまの残りしうらま

源 男をうけて後そも北みよこの世まで

おやをうけしあひひりや

え 男をうけては生残うけてこの世まで

子うけしうらま

秘 あくさめてのうらま後世まで

とちうけしうらま

そありしうらま

源の初こいひてうらま後

世とちうけしうらま

あ およてあは

秘 源の初こい

いとひかかあしうらま

あこまはあらま

秘 馬実の貞女いとひかか

はらあま

いとひかか

月ゆいそくすうらま

おのり河ふいおのいぬい

わりのり考くくれをきそらりせりり
ぬものりさひひさかきり

河 清少納言枕草子すまきりりき
おのりふれきさきりり月夜しき

源内約のりりやくみけさきりり
さきりり月さきりりさきりり河
まハまきりり月さきりりさきりり
り河さきりりめおしハ十粒れ冷

枕草子

秘

河海小枕草子よさきりりき
おのりふれきさきりり月夜しき
南河内流布小枕草子りりき
かー他市小枕草子りりき

但清少納言く又え捕弄みりり
ておのりあきりりりりりりりり
みりりおのりりりりりりりりり
さきりりりりりりりりりりりり

さ海しき押しひみんゆらり
とそくしゆめは又は美にたたくも
は筆みきりり皆さ日奥よ河
海よりんくり

私は筆し河花も妙きかたき花
草子の本美同わりとみりり
河海よきりりよまれり花
まはは筆しとのせふり本ありり
一花鳥もけ美も同せり花り

又え痛うあよそれ月紙廣し
これいじとあれかば物よ
さゆりり入るすしひのさ
渭りれを述作のく日おきて
今日一作者花よむひてハ
お祭はあよりぬきとみお
祭よ射してハ花ももさりり
海すき古事のおもひ父の海
せし筆紙ゆつさよなあり

ちふふなる人け美にれ来る冷き
ゆふひるんとくけり冷き
おひひきり事いづれも何のま
あし

こひのつとまあち

源の突よこむあや

ひととわいかに人つてあて

是より源の綱

何橋

しつとゆひきもあんとほりて
人つてなしていかり

私乞ひあ事ふかりぬ人よきうこ

うもおひこきんとら事と

直あひいれとら事也只今

源の心いれしもの一と紙あり

やも人つてなして修まはれ

たふらひあらぬのみありにせん

わたりきて実をいへりしをいへり
みまにけしき自然うわたり
海

昔とされし人も

^秘権の心仲一也

あまなりしれゆせ

^秘あまなりしれゆせ

世の末ははこいしと

^秘はこいしと

けこるれやせ

^秘無月定夜御説

あまなりしれゆせ

^秘源の心

しるれらてるといあぬ

^秘あまなりしれゆせ

あまなりしれゆせ

しるれらてるといあぬ

あまなりしれゆせ

かきしとて

あといさうぬけりり風のきこひ
きくしてまゝに

^秘 減れ字ありし

^源

つまれば紙昔にらぬ年うのけ
けりし世くつりしれ

つまらぬしひしれ事しせれ
よらわぬらぬ人のけりし
世くつりしとて面白し

心はくつれし

^弁

川あふけ

^{河原}

けしていつか海は川のせせらるる

しやみもなるれ舞下

^右

ま風のたれあををよきこてうけ
ぬつしやうつ海よみん

^中

あしきもぬつしれわさあれは

しきうあつしそせせらるる

^秘

河海川あわさうつゆきししして

不叶をく我身れなつていふ
うろく——河海ニ遊ばるゝ中勢
多うし月を

けろく——

^秘さうぬ人——のむせ

何まわりつれあへつらふまは押し

あつたりて何ういふん人の——

こしきしむつり

^え人れよたにきつたむ——今せ

のかさういふいあへつらふまは

て我身より感して何うあつてむ

しむしむしむし

^身新院の身らるゝは成何なはあ

て人の心乃はあをたわらな

ん——

^秘新院の身らるゝは成何なり——

たゞそへいひらめして目ありしを
人のくよそまやうよあつたはひか
しきと一ためしあつたはひか
うらうらうに悔してわらわは
いへあつたあゆまへは 結ノ白
ひらひらとほろほろあつたはひか
末の洞よむらうらうはな
らうらうとゆらゆらとあつたはひか
あつたはひか

むらうむらうらうらう

^秘 我ハ昔あつたはひか

まあやうむらうらう

海のうらみていへん

いへん世をま

源の河也

いほ川

いほ川

秘

大なる川にせよ

いほ川

いほ川

いほ川

いほ川

いほ川

私

いほ川

いほ川

いほ川

いほ川

いほ川

いほ川

いほ川

源のうら若もすあはれあはれ
いあわらぬいあはれいあはれ
おちらひらひらあはれいあはれ

是の言なるうら若もすあはれいあはれ

何事ありあはれいあはれ

^秘さうぬ人よものあはれ

松原なるうら若もすあはれいあはれ
いあはれいあはれいあはれいあはれ
いあはれいあはれいあはれいあはれ

人よものあはれいあはれ

さうぬ人よものあはれいあはれ
なりあはれいあはれいあはれ
いあはれいあはれいあはれ

^秘源のうら若もすあはれいあはれ

事あはれいあはれいあはれいあはれ
人よものあはれいあはれ

さうぬ人よものあはれいあはれ

いあはれいあはれいあはれいあはれ

れは事なり申中し源乃由何り
さ海のさくひなく密をうれか
とをもしんまうられもお月
と心のあるてはまれえん乃
心次の間よりみえり是事と
の奥をあり

とあつてれよあふりてさあん
^秘げあられをみえりさ海をて
かさいよあつての人のつよさ

あつてれよあふりてさあん
なつてれよあふりてさあん

^并あつてれよあふりてさあん
とてまつりさあひりね
れとみあはるひねりと秋院
のさつてれよあふりてさあん

^并あつてれよあふりてさあん
心れをさつてれよあふりてさあん

うきうき

さやにありはうきうき

源氏れありたしめり

たうかきんあきげあり

何 無愛 無教 酒取不用

我のゆくありまは

ゆきり返り

人にたれゆき

うきうき

うきうき

うきうき

うきうき

新後まは

おこひの事

新後まは

をうきうき

おこひの事

新後まは

おこひの事

これらうあさうせむそて移成の
とせかき

鑑子の内親王は新院よてみ娘
あやうり

并
新院あさうせむそて移成の事
后に成候しんのかうと

はあさうせむそて
出家しあさうせむそて移成の事
あさうせむそて移成の事

あさうせむそて

申しあさうせむそて
并
新院のかつひ屋さうせむそて
とせかき

しに后うに成候し源乃あさう
ちみあさうせむそて移成の事
とせかきあさうせむそて

あさうせむそて移成の事
源かきにあさうせむそて

幸うあつんとさうし女房よと
おとこはなや

流は〜かかれん〜らあまこ

流 新院の流は〜かあまこはるや

うふみきんと系圖よん〜り

事〜ゆも〜あつ〜り

やあ〜さ〜地流よけ類は新

事 せりは〜よ〜てゆひはなぬる

流〜系圖〜み新〜とあり

きゆり〜

系圖〜〜す〜る人とな

〜

あ〜は〜あ〜

秘 別腹かれや

あ〜人乃

秘 源をゆ〜てり

あ〜心や〜

流 新院の女房をよ〜氏〜

心なる成りて

秘 心なる源は成りて昔

たしあふらり

是より源氏若れ心の中を

あつらひ

まはてやいなるも

源乃心第は巻をみればいふる

くつらり

秘 源の心第はより

きていなり又人へ成りて

て

けふい人なりあひさぬよおれ

よ河より

是ハ権乃勢流れあひさぬ

おちれ

よの人乃いあひさぬ

あつらひ

さうて 何 結目 揚目 訓

秘 巻

あまの経まよりては

源氏人のついで経曆して半の

さゆくはゆまより経の并日

因世を少ふまよひて何の

切り入るる

いよほくれあまの

秘 化 日本記

むあーかへん

権ー何れん

女若たつれふ

秘 巻

秘

あまのついで経の

多しあまのついで経の

あまのついで経の

秘 巻

あまのついで経の

秘 原のあまの

あまのついで経の

秘

源の初之節書之

并日 齋日

私田一々一ひりまきれをい

しつりまのくけり

おしかびま

源の業をいして

まろくれまのひり

秘

海りれまのひり

秘日

いしつりま

葉のま

いしつりま

又源の初

まろくれま

秘

いしつりま

いしつりま

定なれま

まろくれま

いしつりま

いし

秘院よりなる形

秘 一とありて源のいひ

そのついでに

ふれん事しとハりまゝ自然に

みんそと也

昔よりこよあり

秘 秘院也事し

かゝるもつとくも

秘 秘院也

まよくしとくも

実みとらむとくも

なりと也

かゝるもつとくも

秘 秘院也事し

つとらむと源のいひ

同実しとくも

幸しくハハる事し

と也明石事し

原のこころなりすまみきりせし

松と竹とのきりめきり

貞松彰秋年ノ寒少ししを記す

竹のりや十八年霜ね露一

千年又雪中深

園松ト竹ト雪乃りたり松名別也

秘少くもあふ雪大の由也

時よつまでし人の心成るり

松林よりおひみきりてわきより

時よつまでし人の心成るり

みれよのすあふ月

いさよこしておひあしとんを記す

去れ花よもおしりたり

おひし海よこ洋の端よくり

去りせり

ありおし老しなりしもいとく

のうらなり月とほしん

家澄れりあはとちりれ心れあし

十五の月さきあしあひをれきん

ほ 清少納言枕草子 十別冷物

十二月之夜同扇同夢水老女假

粧女醉胡凡老法師醉舞無

酒沖乐勅使社打田競馬嵐菴

八仙盡舞皇日詠去久久月れは

月せしあはれおしりあつと人

みてあれすさゆしあはれあ

くしあはれとよひれハ

去とすろをれかふるをとす

くの月しりあはれああ

氣 清少納言とは軍式といは日討分

ていしあはれあはれあ

あつすれ月あ少納言はたし

とひしを或るハああはれあ

あしりあはれあはれあ

清少納言の枕草子には去冬、御衣
とて細衣の類は、夫は、
り、何れ小仲、
私、
ち、
み、

遺、
篇、
が、
小、
と、
し、

雪、
雪、
應、
飛、
女、
所、

雪、
雪、
應、
飛、
女、
所、

さぬくれあこみん

一筋 弁 とうとうとうとうとうとうとうとう

秘 といぬらそほにうらりさるるや
う一みかきしとさうくさ成束を

うらりて 器ー

たひまらげきいものわすし

秘 彦のー

弁 同第 金 はんぬれぬひれぬや一筋

花 わすしとハ箱立のー

ちいさきハ

何れ説田君之

童氣くぬれきううと曰ー 羊保

ゆはりしけ網あり

秘 たさるれぬと童氣やたさる

ゆみ自のー

あつさるるや

何 女房し式しは冬をかきす

捨るぬ

秘

何ノ名をも扇を扇く事ある事
何一扇ハ其も扇く事有らば

秘

女の扇を扇く事有らば
めくされハ扇く事有らば

わびげん

秘

力とりれてちまたに
あはれ

并

力と入らるやうに

貪生

遊仙庵

私貪をとりては訓と見たり
貪いしむこと貪欲の方なり
よ丸くんと欲をせんと

かたわら

傍書をくくこの人といふ

わびげん

けりしむらう

一と中まの事なり

え
げ中交ハ為名をれ女院とよふありハ
雪山ハしうしりとのあしそまひこ
るりそとひ之又花山院後師房女
れ而乃の書ハ雪山けりて作文
ありし事ハ小右記もてきりり
寛和元年正月十日のり
何
松茸子云志りぬれ十余日かて雪
しうしりきりりを流はし或る事
澄ましりくられハまもひておま

といふ雪れ山けりて世にぬれ
あけはしりあのを書りもつてせりふ
中あも弘徽殿の書ありけり
ましりり雪後冬しはけりてせり
しは
あつあつしりりしは雪れ山
こりりしりりしりりしは雪山長徳
二年後長保二年のりしはけり
寛弘のりされハしりりしは

又雪山は麓人下と昔武人少
て山はげくは所れ雪とまひて
こゝに

来

所を云れ山ありよつてうれしうあり
——と

秘

源の山の上へこりて中まはりす
云や雪山の事河海花をみたり
承仁の山とては事河海花をみたり
深もみみり 麓人下ありて

山河せし

くろれと事せ

秘

はうらまの事なれとるやれふ
人下とてありて事せし

うー河やまのれれふ

源氏をうーるやとれ事し 所を
れおかりありて事せし

所を云れ運亭あり 事河の所も源の
伏せありて事し 河海花をみたり

美いもの

とていふからくくくくく

何 良し 喜し 日記のやうくくく

と云酒世ののらいついんうまといや

秘 くくくくくくくくくくくくくくく

とらいついんうまといや

くくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくく

奇 何んや

わくくくくくくくくく

いはまこも房を云れぬ

秘 若くさいくくくくく

軍上のぬくくくくく

え のゆいんうまといや

けま上の女虎のぬくくく

くくくくくくく

まくくくくくくく

奇 何んや

かしくーま

文 早一や字又廉

是ハ唐名云小葉上ゆりこよま
すり似るる所あはれとくりり
ししくーまといふと権乃幸
るし物えんーれあつてんま
乃流又潤するーししくーまの
すしせしハあーるそそあか
ーまのこころと

新 新院乃由也

秘

是しり権乃新院の事とのま
是ハ曰し心あまこころ又唐名な
わしハかりそらと

ゆまのいこころ

しれせれこころあはれ人のまれ
こころ

おろしひあはせんまこころ
せしあかしたる人

ちひさし〜はらう〜

^秘 葉上の羽

あき〜れふすらりて〜

^秘 葉の親の尚幼也何さ〜

ちりちり〜て〜れうり人のゆん

を何とぞん〜半れあ〜

と知り〜た〜のゆん

うら〜〜〜れ〜はらう〜

きこんと〜あ〜

あや〜〜〜はらう〜

^秘 源し〜ん〜り〜ゆ〜

はらう

^秘 源の親也 ^秘 葉上同じ〜

^秘 是ハ源氏の世を〜ん乃〜

名れ〜〜〜り〜

か〜ら〜れ〜女〜 勝の事

さし〜お〜い〜

^秘 源氏の河勝月夜

秘
我と後悔ありて内なる悔
きよかあつて
うらあざけとさう人の幸つりめ
しに

源の好色しりありしと云ふ事
の悔ありきしてそとへ好ま
るは多うのの好まらざりしと
人れくとのよし
人よりいよなきしつきはし

何
源の好ましと云ふりしとの
よし観し

山所との人しそは
秘
これより明石をかきてのよし
人よりいよなきし

秘
明石と交領のよしありし事
しり 幸日

秘
明石上の事源よりありし
われはふさぬしとみけらとハ明る

八人よおほまはうき人たれば
ちりあられふさぬを源氏れみけに
よのまふに

國族性ありハちりありキもさなれ
あまわりゆーるさろやうにいなて死
人されも交領の女也源乃ち
何うせすしてとくし 秘奇
り叶ありぬー
いふひるれさくれハさささんば

秘 源のあひ流人のちらにのこいさ
ひあれさこの人ハあけきしを流ら
ぬくましそよ人のまねるうし
せんーれ流ー
秘 花らるるまき

さうさういさうい
秘 け人の根さうのあわりを流さ
さふさふまはせのうらわがせ
とりて

ゆりぬきなる人もありぬきみれ
きりりぬきやいそむり
ほくまーしむらうてむらきんえ何
ふまうーい事しかじか
いまうーいかー

^秘はくのやうなるの有るい
^空あともいーいものいりあやし
月のひげそつら

^秘南をみ神つりまてきもぬい
たうすたれらあ

かんけいなりや
はの髪のもりあつと
あーいーあふんの

病をい
花日昇日
いさうりいふゆいり
あうーいけえのいけあ

弄

ふたの二字 澄明もやと 但方よとこ
し 何のやうよ 何の何とこ 思惟
し 又 東又 何とこ

秘

いれりあてて 書と 東よ 花鳥よ
く 何の何とこ 何とこ 何とこ
ふ 何とこ 何とこ

入るひてよ

渡下よ 入るひて

又れ 何とこ

秘 何とこ

り 何とこ

秘 又れ 何とこ

うすくはれ 何とこ 何とこ 何とこ
のひり 何とこ

ふふ 何とこ

何とこ 何とこ 何とこ 何とこ

女若れ 何とこ

源の何とこ 何とこ 何とこ 何とこ
何とこ 何とこ 何とこ 何とこ

源と 何とこ

夏中れ海しつゝくは
八景のちやこさむらうしや
いもつゝうわ〜
ゆりても海は出ふし
うらもみ〜うらて

并
源氏の

空上人まらりくうさ海月宮わ
又源氏ゆこ〜ねく母まいられ
事いともゆるとら〜うみさうて

う花り〜海をゆ〜あ
と心〜

源
こけて寝ぬねえきり〜天にそれた
ひかりもまつる夏れみ〜
秘
こいさ〜う物も〜

山首ふか手は末
夏山ノ
神の少まは
ふ〜トケテ
子ス東の夏
ソ〜シヤキ
後まねま
けあ〜
ア〜リカサ
ケんニヤ

とけて移ぬハ寒く來れ種也

さうとハあつて

為るを云れ此のめとハあつて是

取しよ此す河

^何 ^礼 此文の此すあま此河源流成る世流之

延暦元年十二月壬子勅太上天皇

国忌所斎當今月廿三日宜令

天下諸国々方二寺見僧 后奉

為誦經 享續日本紀

いづしきいづんせまふとりも

源乃密通のりゆと

おとらひとらひ

為る乃事也

これ世のさうりな

^何 法華経上掲要世劫得見一煩惱

一衆生一命一 伊行天

さくたけりきとるなり

源れ心ありまましくとりて

まろくたつとせむよお子らんをせ
しひんこしてよまうてく

伊集丹尊久神代生て焼く
ゆまて黄泉國へ里すを
并流るるゆておりて

人らあふてけり
源の流をた佛事するしわれら
一はりて人不畜まら

心と心のあや

秘

至上僧初乃るり
源流くもあく
くつては

并

まよふの信養
くそくり
な
乃事と志せ
や

あふかきけとをよけて念

経より一蓮りししをね

一心不亂 何れは

一とひもあむはらへての仲とよみかたき
乃らふ子のやうぬか

一と池中華盡満華し惣是性生

人若留半座奈華業待我同

浮同行人 丑句讀

一蓮託生を移さるるへしとて

^原なれんとさるふはよきうあてとてけ

みぬめれせはやゆしん

三途河津 何 伴行なめは

しけみぬめれせはやゆしんと

あり不驚

いかりよきとひてのゆかりも其

生ぬはよりきこし

いりせはよきとひ

^奇三瀬川ぬきせしきよき水乃瀬は

之概川よみよふふふふあり

しぬるんううううううわ

概よやきしつとぬすそうり

きりよとやこせ別の美ぬうん

